

3-8 第8分科会「童謡の研究」まとめ

担当 斎藤洋

分科会テーマ	童謡の研究
担当者・メンバー	担当者 斎藤洋 メンバー（12名）大和田諭子、小松さな恵、袴田枝里、村山友里、森山美里、川住知佳、瀬谷美由希、小林沙生、佐竹佳奈、佐藤大輝、鈴木千尋
活動の概要	童謡の歌詞に込められた真のメッセージを探り、さらには実際に歌うことにより、童謡への関心を深めた。歌詞の意味と解釈、詞とメロディーとの関係、曲の成立背景などについて文献、映像資料等をもとに多角的に研究した。
活動のプロセス	研究の方法 ○1人1曲、童謡の歌詞に隠された謎について調べた。 ○グループごとに以下のテーマについて研究した。 1. 遊び歌 様々な遊び歌を系統的に分類し、その歴史について研究した。数曲を取り上げ、実践した。 2. 秋田の童謡 秋田出身の作曲家について、その生涯と作品を研究し、数曲を取り上げ、実際に歌った。 3. マザーグース イギリスの童謡であるマザーグースについて研究し、その特徴、日本の童謡との違いについて考察した。 4. ランキング 童謡が多く作られた年代や、現在でも歌われている曲が多い作詞家・作曲家などのランキングづけした。 ○現地調査として、分担して浜辺の歌音楽館、「どじょっこふなっこ」の発祥の地である金足西小学校、インフォメーションセンターで開催された童謡のコンサートに行った。 ○秋田ゆかりの童謡、「どじょっこふなっこ」の合唱をした。 ○各研究結果をもとに、童謡の役割とこれからについて考えた。
まとめ	昔から歌い継がれてきた童謡が、次第に姿を消してきている。しかし、忘れかけていた多くの童謡を歌い、研究を深めていくうちに童謡の魅力が再発見した。作者の童謡に対する情熱、詞やメロディーの奥深さに触れ、こんなにすばらしい童謡が消えてしまうのはあまりにも寂しく、これからも歌い継がれていくべきだと考えるようになった。 童謡には、異なる世代をつなげる、そして親と子の愛着を形成する役割がある。歌っていて心地よく、やさしい気持ちになれるものである。 地域や世代間の交流が減り、親による幼児・児童虐待が社会問題になっている現代社会において、童謡の果たす大きいのではないだろうか。その意味でも童謡を私たちは絶やしてはいけないと思う。